平成 22 年 7月 1 日
第 38 号

やかたばら環境通信

◇◇ 発行 ◇◇
八方原の環境を守る会
代表 原田憲一郎
電話 972・7602

こんな泥水の中でお米が出来るの

上郷小学校の２年生が八方原の田植えを見学にきました。



田植機の大きさとスピードにびっくり「乗ってみたいな」

6月14日、市立上郷小学校の2年生が田植え作業の見学にやってきました。小学校では総合学習として、いろいろな仕事を、実際に見学する学習を続けています。

児童は、給食センターでみんなが食べる給食が作られる様子を見学した後、八方原の水田にやってきました。

始めに、お米から稲の苗になる過程の説明を受けました。食べるお米が稲になるのは、驚きのようでした。

中村さんの水田に移動して、実際の田植えを見学しました。児童の中には水田をそばで見たことのない子もいました。「こんな泥水の中に」不思議がっていました。

田植機の大きさにもびっくりの様子でした。近づいて見たことはあまりないかも知れません。機械が苗を植え始めると、今度はその素早さにびっくり。「乗ってみたい」「運転したい」そんな声もありました。

児童はこうした校外学習に備えてしっかり事前学習をしてやってきています。どんなことを知りたいのか、どう質問したら良いのか、先生と話し合って準備しているようでした。しかし、児童に分かるように説明するのは簡単ではありません。「この田んぼの広さはどのくらいですか?」「30アールです」児童にとってはその単位が理解できないようでした。大きさの分かる他のものとの比較の方が、良かったかも知れませんね。

分かったことはすぐにノートに書き留めて



後日寄せられた感想文には「米づくりの大変さが分かったので、ひとつぶひとつぶ大事に食べたい」また「田植えを実際にやってみたい」「田植機に乗ってみたい」というような言葉がつづられていました。農業への親しみにつながると良いですね。

水路の傾斜を測量



水路の流れが滞るのは、水路の高低差に問題があるのではないか。一番北に位置する東西の水路の高低差を、株式会社亀井組の協力をいただき、測量しました。水路は中間部が、僅かに盛り上がったようになっていました。

関係機関と相談しながら、改良の方法を模索しています。

一年分の大掃除 水路の泥上げ


水路の底から市道までは2メートル以上あります

恒例の一斉水路清掃「みぞしご」が5月30日行われました。ほぼ一年間にたい積した水路の泥を取り除き、流れを良くするものです。

この日は真夏を思わせるような強い日差し。厳しい作業に暑さが追い討ちをかけました。

水路の底に僅かにあるように見える泥も引き上げてみると、相当な量となります。まして水分をたっぷり含んだ泥ですので重さは想像以上です。

なんとか予定の時間で作業は終わりました。参加のみなさん，ご苦労様でした。

※当日、部分的に泥を溜めておいたものは6月9日に引き上げました。


スコップで農道に上げられる水路の土砂

・・みなさんのご意見をお待ちしています・・

「あなたの手で明日の小郡を」と、新たに発足した「おごおり地域づくり協議会」主催の地域懇談会が開かれます。お誘い合わせの上お出かけください。

7月18日（日）
午前9時30分～11時30分
新町東公民館
午後1時30分～3時30分
上郷児童館

おごおり地域づくり協議会は小郡地区の12の団体で構成されています。今の区長協議会とは異なり地域全体の問題に取り組みます。

ご苦労様でした 市道の草刈り


事前に刈り取られていた草を引き上げて、さっぱり

地区の「山手通り」とも言える東側の山沿い市道の一斉草刈作業を6月20日行いました。

道路の両側ですので延長は1500メートル近くなりますが、50人以上の方の参加をいただきましたので、比較的短い時間で作業を終えることができました。

また当日出られない方は事前に作業をしていただき、何カ所も手のかからない状態になっていました。日頃地区の行事に参加できないからと、この市道の草刈りを続けておられる方も分かりました。お礼を申し上げます。

この道が舗装される前には。「みちつくり」という作業がありました。草刈りは今後も続ける必要があります。


作業を終えて一息、お疲れさまでした

堂々の挨拶にびっくり



八方原・森下区の児童の下校を見守る地区老人クラブと児童の交流会が5月22日、八方原公民館で行われました。お互いが自己紹介をする中で、1年生の児童のひとりが「今年一年お世話になりますので、よろしくお願いします。」と大人顔負けの立派な挨拶。会場は一瞬の静寂の後、大拍手となりました。